



# 2017年2月期第2四半期決算説明資料

株式会社ジェイグループホールディングス

(3063)

2016年10月19日



## 1. 第2四半期連結決算概要

決算ハイライト	-----	4
連結損益計算書概要	-----	5
連結貸借対照表概要	-----	6
連結キャッシュ・フロー計算書概要	-----	7
セグメント別業績概況	-----	8
飲食事業の業態分析	-----	9

## 2. 第2四半期トピックス

既存店売上高は堅調	-----	11
新規出店店舗も改善傾向	-----	12
営業損失の大幅な改善	-----	13
既存店収益状況	-----	14
上期の新規出店・リニューアル	-----	15
店舗数の推移	-----	16
不動産事業の順調な成長	-----	17

## 3. 今後の取り組み

今後の方向性	-----	19
居酒屋業界の現状	-----	20
業界平均化の危機感	-----	21
これまでの非常識への挑戦	-----	22
差別化のポイント	-----	23
新たな非常識への挑戦	-----	24
その他の取り組み	-----	26
今期の業績見通し	-----	27



# 1. 第 2 四半期 連結決算概要



## 1 売上高は微減

前期の店舗整理により実質的な営業席数はほぼ横ばいの中で、8月のオリンピック、台風等の影響があり売上高は微減

## 2 営業損失は大幅改善

売上高は微減の中で、前期の店舗整理・ならびに継続したコストコントロールにより営業損失は大幅に改善

## 3 新規出店店舗の改善

立ち上がりの遅れていた第1四半期出店店舗も、口コミの浸透などにより順調に売上高が改善

# 連結損益計算書概要



	2016年2月期 第2四半期実績		2017年2月期 第2四半期実績		前年同期比 (%)
	実績(百万円)	構成比(%)	実績(百万円)	構成比(%)	
売上高	6,967	100.0	<b>6,941</b> ①	<b>100.0</b>	99.6
売上原価	2,164	31.1	<b>2,159</b> ②	<b>31.1</b>	99.8
売上総利益	4,802	68.9	<b>4,781</b>	<b>68.9</b>	99.6
販売管理費	4,864	69.8	<b>4,793</b>	<b>69.0</b>	98.5
営業損失	△61	—	△11 ③	—	—
営業外収益	80	1.2	<b>56</b>	<b>0.8</b>	70.5
営業外費用	57	0.8	<b>83</b> ④	<b>1.2</b>	146.3
経常損失	△38	—	△37	—	—
特別利益	—	—	<b>4</b>	<b>0.1</b>	—
特別損失	80	1.2	<b>67</b> ⑤	<b>1.0</b>	83.0
税金等調整前四半期純損失	△119	—	△100	—	—
親会社株主に帰属する 四半期純損失	△168	—	△86	—	—

- ① 実施的な営業席数はほぼ横ばいの中で、8月のオリンピックや台風の影響により売上高は微減。
- ② 飲食事業単独での原価率は27.3%となり、原価低減の取り組みにより前年同期比0.4ポイントの低下。
- ③ 前期の不採算店舗の整理やコストコントロールの徹底により営業損失は大幅に低減。
- ④ 円高の影響により為替差損が発生
- ⑤ 引き続き不採算店舗の減損や閉店の実施により減損損失・店舗閉鎖損失が発生

# 連結貸借対照表概要



(百万円)	2016年2月期 期末	2017年2月期 第2四半期末	(百万円)	2016年2月期 期末	2017年2月期 第2四半期末
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
流動資産	1,051	1,137	流動負債	2,571	2,678
現金及び預金	289	286	買掛金	412	383
売掛金	335	386	短期借入金 ※	984	1,070
原材料及び貯蔵品	96	108	その他	1,174	1,224
その他	329	355	固定負債	3,826	3,950
固定資産	7,115	7,187	長期借入金	3,361	3,366
有形固定資産	5,564	5,649	その他	465	583
建物及び構築物	3,084	3,286	負債合計	6,398	6,628
土地	1,774	1,775			
その他	705	588	<b>純資産の部</b>		
無形固定資産	40	32	株主資本	1,812	1,714
投資その他の資産	1,511	1,504	資本金	1,068	1,068
繰延資産	2	1	資本剰余金	998	998
資産合計	8,169	8,325	利益剰余金	△179	△277
			自己株式	△76	△76
			その他の包括利益累計額	△47	△20
			新株予約権	3	3
			純資産合計	1,771	1,697
			負債純資産合計	8,169	8,325

※一年内返済予定長期借入金含む

# 連結キャッシュ・フロー計算書概要



(百万円)

	2016年2月期 第2四半期実績	2017年2月期 第2四半期実績	ポイント
営業活動によるキャッシュ・フロー	△85	<b>359</b>	税金等調整前四半期純損失 △100百万円 減価償却費379百万円
投資活動によるキャッシュ・フロー	△410	<b>△419</b>	新規出店等の設備投資による 有形固定資産の取得 422百万円 差入保証金の差入16百万円
財務活動によるキャッシュ・フロー	285	<b>59</b>	長期借入れ1,013百万円 長期借入金の返済897百万円
現金及び現金同等物の増減額	△210	<b>△3</b>	
現金及び現金同等物の期首残高	749	<b>289</b>	
現金及び現金同等物の期末残高	539	<b>286</b>	

# セグメント別業績概況



(百万円)

		2016年2月期 第2四半期実績	2017年2月期 第2四半期実績	前年同期比 (%)	ポイント
<b>飲食事業</b> 居酒屋、レストラン等での 飲食サービスの提供	売上高	6,287	<b>6,250</b>	99.4	売上高は微減となるが、原価や人件費、その他経費含めたコストコントロールにより増益。
	営業利益	235	<b>245</b>	104.4	
<b>不動産事業</b> 不動産の賃貸・管理業務等	売上高	910	<b>943</b>	103.6	前期オープン「JGrowth大曽根」今期5月オープン「JG金山」が順調に稼働し、売上高・利益ともに増加。
	営業利益	80	<b>100</b>	124.4	
<b>ブライダル事業</b> 挙式・披露宴サービスの提供	売上高	395	<b>368</b>	93.2	「LUCENT Mariage Tower」の強みである高層階からの景観が、名古屋駅周辺の開発工事により悪化し、成約率が減少。
	営業利益	0	<b>2</b>	285.5	
<b>その他の事業</b> 広告代理業、卸売業等	売上高	465	<b>465</b>	99.8	シルク・ドゥ・ソレイユの公演を第3四半期に実施。
	営業利益	22	<b>22</b>	99.7	
<b>調整額</b>	売上高	△1,091	<b>△1,086</b>	—	
	営業利益	△401	<b>△382</b>	—	
<b>連結財務諸表 計上額</b>	売上高	6,967	<b>6,941</b>	99.6	
	営業利益	△61	<b>△11</b>	—	



# 飲食事業の業態分析



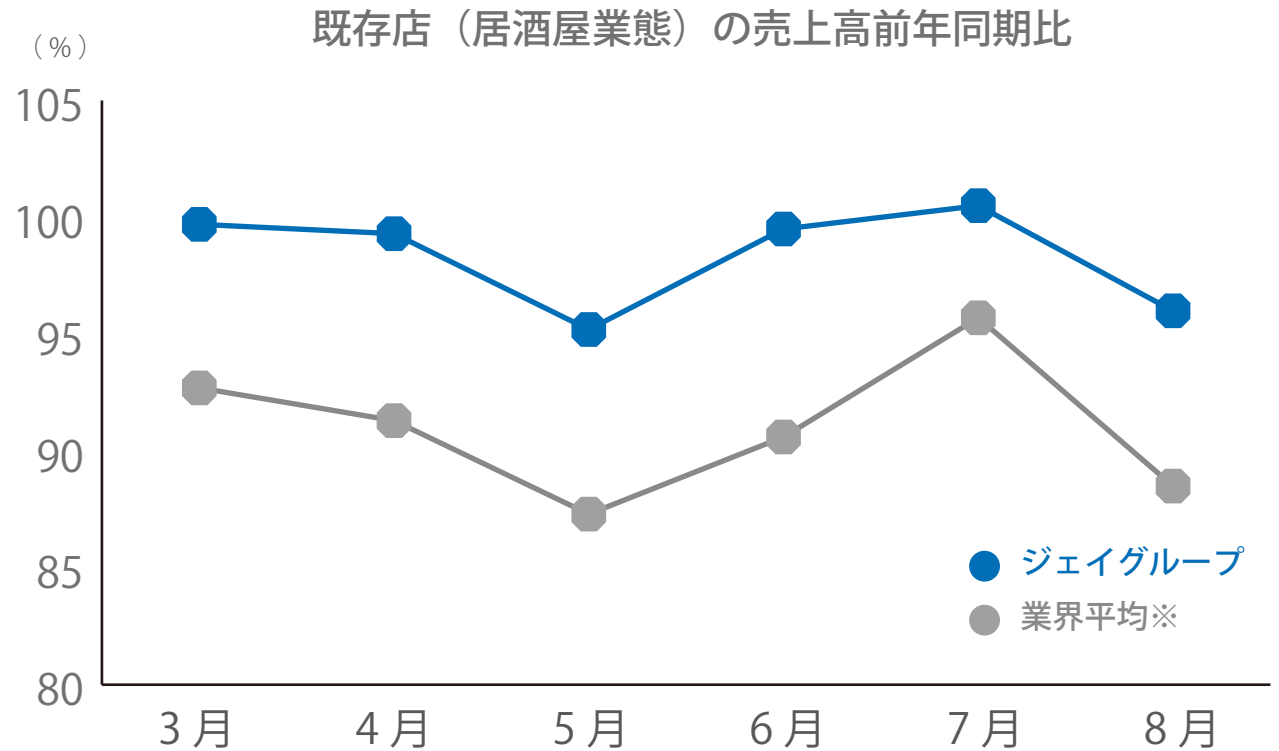
(百万円)

		2016年2月期 第2四半期実績	2017年2月期 第2四半期実績
居酒屋業態	売上高	4,818	<b>4,857</b>
	営業利益 (本部経費配賦前)	569	<b>588</b>
レストラン業態	売上高	788	<b>859</b>
	営業利益 (本部経費配賦前)	60	<b>60</b>
カフェ業態	売上高	575	<b>433</b>
	営業利益 (本部経費配賦前)	△23	<b>2</b>



## 2. 第2四半期 トピックス





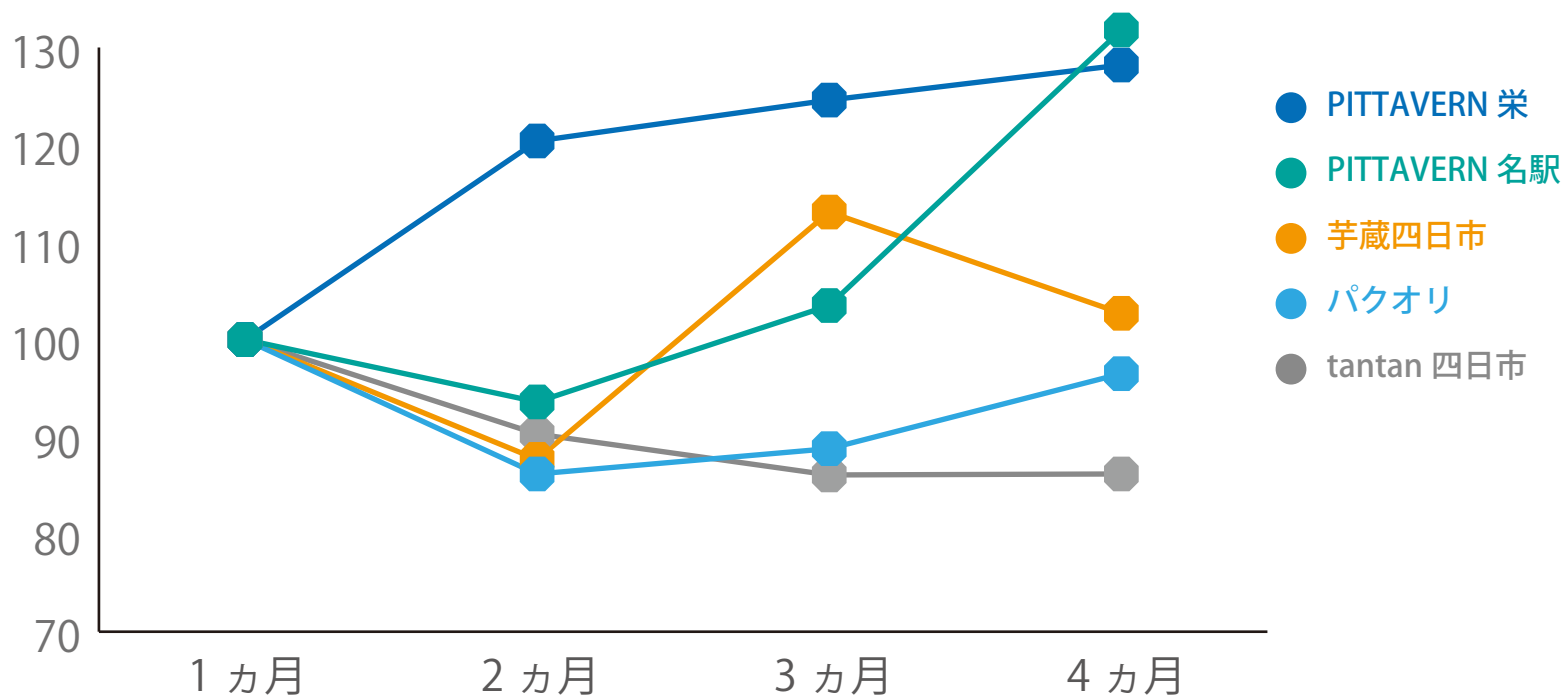
※出典：日本フードサービス協会

居酒屋業態の既存店の売上高前年同期比は、業界平均を常に上回っている。  
5月はゴールデンウィーク、8月はオリンピックと台風の影響により、下振れをしているが、その他の月は概ね 100% 付近で堅調に推移。

# 新規出店店舗も改善傾向



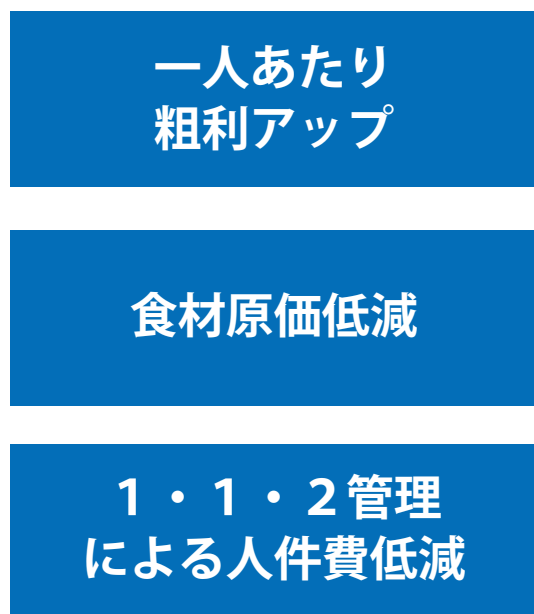
3月オープン店舗（リニューアル含む）の売上高推移※



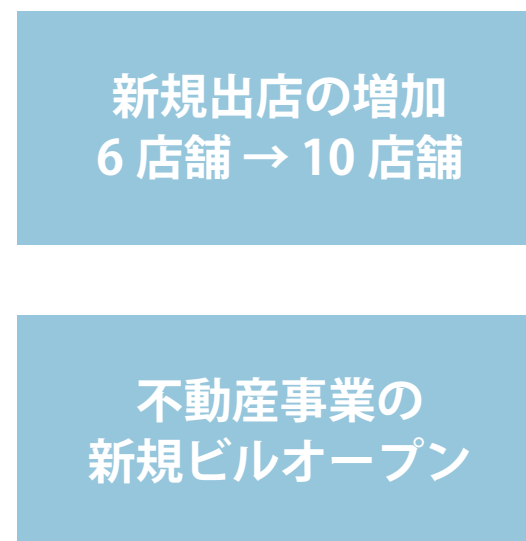
※オープン次月の最初のフル稼働月の売上高を 100 とした指数表示

新規出店店舗、リニューアル店舗の立ち上がりに若干の遅れが発生していたが、第 2 四半期に入り売上高は改善傾向で推移。来店動機として、口コミサイトなどを参考にする割合が増えているため、口コミの浸透とともに改善が進む。

## 主な利益増加要因



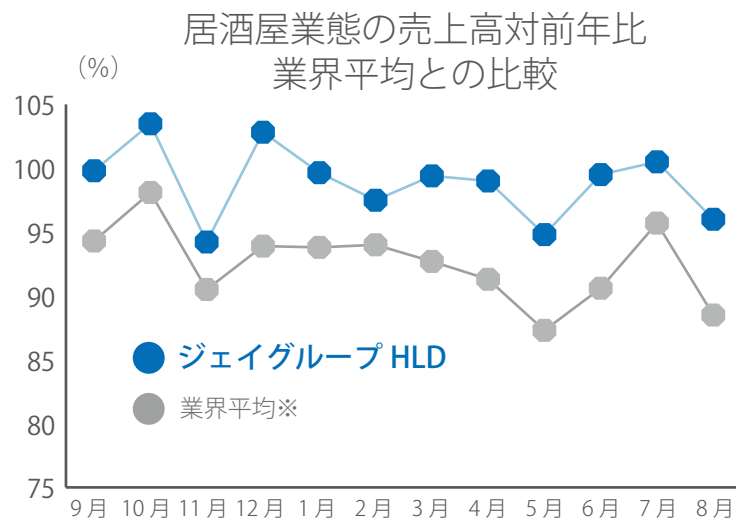
## 主なコスト増加要因



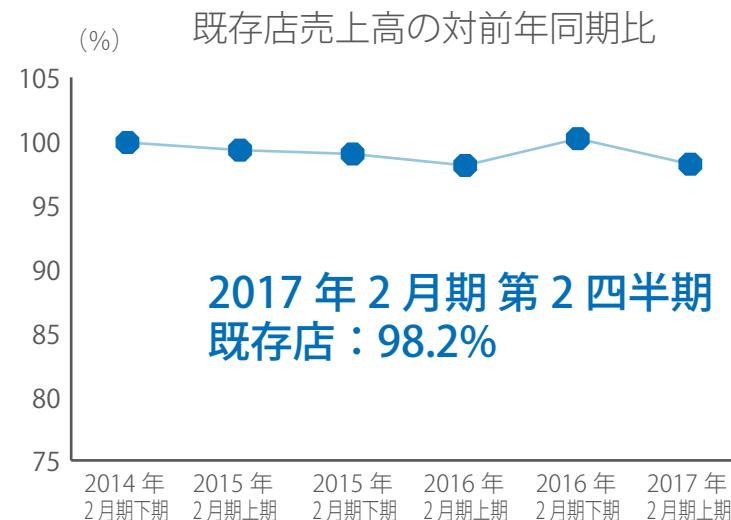
新規出店の大幅な増加、不動産事業の新規ビルオープンなどのコスト増加要因をこれまで継続してきた取り組みによる利益増加要因が上回り営業損失を大幅に改善。

**前期営業損失 △61 百万円 → 今期営業損失 △11 百万円**

# 既存店収益状況



※出典：日本フードサービス協会



		2015年				2016年		2016年2月期 実績	2016年						2017年2月期 第2四半期 実績
		9月	10月	11月	12月	1月	2月		3月	4月	5月	6月	7月	8月	
居酒屋業態	売上高前年同月比	99.8%	103.5%	97.6%	102.8%	99.6%	97.5%	<b>98.9%</b>	99.4%	99.0%	94.8%	99.5%	100.5%	96.0%	<b>98.4%</b>
	来店客数前年同月比	98.4%	102.1%	94.8%	100.6%	95.2%	93.3%	<b>97.3%</b>	97.1%	96.6%	93.4%	98.5%	99.6%	95.9%	<b>97.0%</b>
	客単価前年同月比	101.5%	101.4%	102.9%	102.2%	104.7%	104.5%	<b>101.6%</b>	102.4%	102.5%	101.5%	101.0%	100.9%	100.1%	<b>101.5%</b>
レストラン業態	売上高前年同月比	108.8%	104.5%	95.9%	99.2%	102.1%	104.0%	<b>100.0%</b>	96.7%	105.8%	103.9%	104.0%	104.7%	92.5%	<b>100.8%</b>
	来店客数前年同月比	101.7%	100.1%	99.3%	99.3%	104.9%	108.4%	<b>98.4%</b>	98.6%	103.6%	105.8%	108.6%	109.4%	98.5%	<b>103.7%</b>
	客単価前年同月比	107.0%	104.4%	96.6%	99.8%	97.3%	96.0%	<b>101.7%</b>	98.0%	102.1%	98.2%	95.8%	95.7%	93.9%	<b>97.3%</b>
カフェ業態	売上高前年同月比	92.6%	105.9%	97.4%	95.0%	100.5%	98.1%	<b>99.2%</b>	91.4%	90.5%	91.3%	90.6%	90.4%	88.8%	<b>90.1%</b>
	来店客数前年同月比	91.9%	106.1%	113.3%	93.9%	100.5%	99.0%	<b>100.5%</b>	87.1%	88.1%	88.3%	89.7%	93.2%	90.0%	<b>89.9%</b>
	客単価前年同月比	100.8%	99.8%	85.9%	101.2%	100.0%	99.1%	<b>98.7%</b>	104.8%	102.8%	103.3%	101.0%	97.0%	98.6%	<b>100.2%</b>

※既存店基準：開店日より24ヶ月を経過した店舗を対象としております。

# 上期の新規出店・リニューアル



3月



3月1日オープン PIT TAVERN 栄店



3月1日オープン PIT TAVERN 名駅店（リニューアル）



3月15日オープン パクオリ（リニューアル）



3月24日オープン 芋蔵 四日市店



3月24日オープン tantan 四日市店



3月31日オープン ほっこり バンコク

4月



4月22日オープン 南太



4月27日オープン 四七四七につぽん 名駅店



4月29日オープン 芋蔵 姫路店

5月



5月17日オープン 四七四七につぽん 刈谷店



5月26日オープン 串星



5月26日オープン 吟醸マグロ





# 不動産事業の順調な成長



2006年11月  
ダイヤモンドウェイ  
(自社ビル)



2007年1月  
名古屋ルーセントタワー  
(一括借上※)  
※B1F/1F/2F/40F/別棟等



2008年6月  
G-SEVENS 刈谷  
(自社ビル)



2009年10月  
G-SEVENS 豊田  
(一棟借上)



2014年11月  
ジェイテル名駅  
(自社ビル)



2015年12月  
JGrowth 大曽根  
(自社ビル)



2016年5月26日オープン

## JG 金山 (自社ビル)

住	所：	名古屋市中区
敷	地 面 積：	105.58 m <sup>2</sup>
延	べ 面 積：	526.44 m <sup>2</sup>
構	造：	S造地下1階地上5階
特	徴：	フロアごとに核となるお酒の種類を変えた飲食ビル



### 3. 今後の取り組み



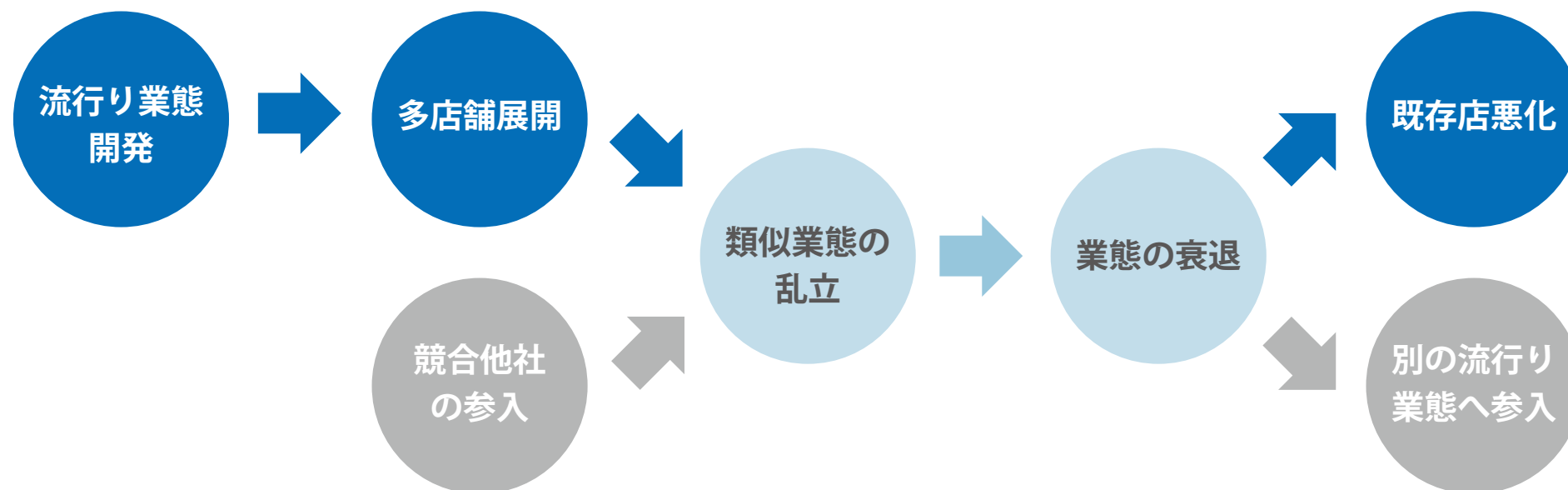
## コンセプト

# 非常識への挑戦

現在の居酒屋業界・飲食業界の経営環境から考えると、非常識と言われるようなことに挑戦することで、初めて継続的な成長が実現できる時代になっている。

ジェイグループはこれまでも会社全体で、また個別の店舗で、様々な挑戦を続けてきたが、ここでもう一度原点に立ち返って「非常識への挑戦」を業態・店舗開発のコンセプトとして採用。

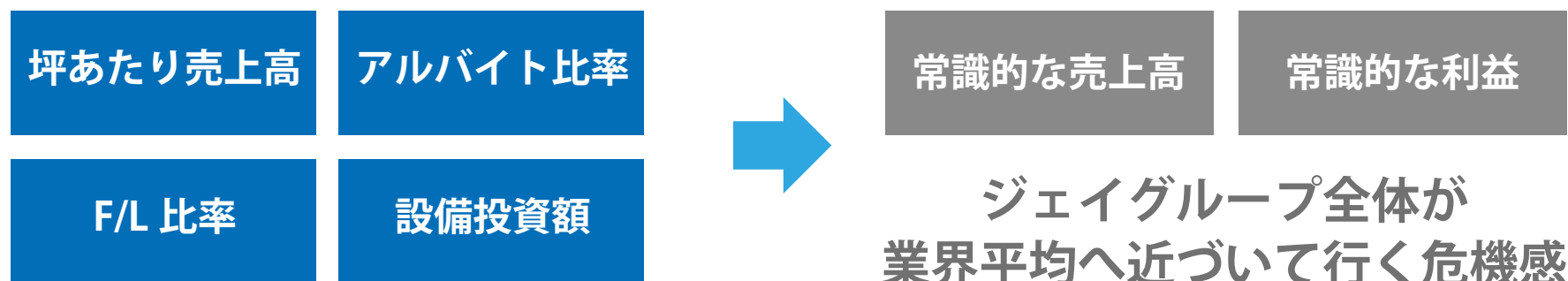
## 居酒屋業界の業態開発の現状



一旦、流行りの業態を開発したとしても、競合他社の参入スピードが早期化しており多店舗展開の途中に競合他社の参入があり、類似業態がオーバーストア状態となる。

**業態の短命化が進み単一業態での継続的な成長が難しい**

## 効率だけを重視した常識的な業態・店舗開発



このような出店を続けると・・・

ジェイグループは現時点では、業界平均を上回る業績となっているが、常識的な出店を続けると、業界平均となる大手チェーンの業績に近づいていく危機感がある。居酒屋業界は必ずしも全体が悪いということはなく、個人経営の繁盛店も多くあり、まだまだ居酒屋への需要は存在している。

➡ **大手チェーンと差別化を図り、個人経営の繁盛店にも負けない「非常識」な業態・店舗の開発が必要**

## ジェイグループはこれまでも非常識に挑戦し成功してきた

### 芋蔵業態の開発

- ・圧倒的な 300 種類の焼酎
- ・席数を減らし焼酎セラーを配置
- ・第三世代居酒屋を業界に確立



### 丸八食堂業態の開発

- ・名古屋めしのブランド勢揃い
- ・大規模店舗の開発
- ・複数業態単一店舗のオペレーション



### 豊年萬福の出店

- ・文化情報発信型の飲食店
- ・「かわてらす」実験店第1号
- ・白漆喰の蔵造り風の建物



### 「持つ経営」の実践

- ・正社員比率 No.1 の正社員数
- ・不動産事業による自社ビル取得
- ・広告代理、卸売機能の内製化



➡ あらたなる「非常識への挑戦」が必要

## ジェイグループの強みを再確認

	資金力	人材力	
ジェイグループ	○	◎	思い切った投資ができる資金力 正社員比率 No1 の人材力
大手チェーン	◎	△	基本アルバイトで運営できる 業態が前提条件となってしまう
個人経営	×	×	人材の人数を揃えることが 難しく単店舗での経営

➡ ある程度の投資が必要で、運営に人材力が必要な分野こそがジェイグループの本領を発揮できる

# 新たな非常識への挑戦：BOCA プロジェクト①



エントランス

## 店舗概要（1F・B1Fの2フロア）

店 舗 名： 1F：LA BOCA CENTRO  
          ： B1F：LA BOCA CHIKA  
住      所： 名古屋市中区名駅 2-2-2  
店 舗 面 積： 約 400 坪  
オ ー プ ン 日： 2016 年 11 月 4 日 予 定



1F レセプション & メインバー

## 独自の通貨システム

入場時に入場料とともに独自通貨の「BOCA」を購入して頂く。  
店内は全て「BOCA」での決済となり、非日常感の演出に加えて、独自通貨とすることで様々なイベントにも活用しエンターテインメント性を高める仕掛け。





1F オイスターバー



1F VIP ルームエントランス

## 1F 概要

### LA BOCA CENTRO

バルセロナにおいて世界規模で空前の  
人気を博すガストロノミー  
「EL NACIONAL」とのフレンドシップ  
により生まれるグランドスペインバル。  
BAR ブースでは世界一と言われる  
「BOCA GRANDE」のジントニックを再現。  
DJ ブース、VIP ルームなどを配置。

## B1F 概要

### LA BOCA CHIKA

オール名古屋の「食」のスペシャリスト  
が終結する地下フードスタジアム。  
中央にあるオープンキッチンには4つの  
ブースで構成され、ジェイグループに  
加えて「G オイスター」「がぶりチキン」  
「ベチロカ」など魅力的な店舗が出店。  
大規模なサウンドバーも配置。

B1 サウンドバー



B1 オープンキッチン



## 取り組み ①



シルク・ドゥ・ソレイユの公演「トーテム」の  
買い切り公演を 11/30 に実施。300 席の招待席を  
設けた社会貢献活動に加えて、売上高・利益など  
業績拡大にも寄与。

## 取り組み ②



猿カフェ TV 塔店において、人気スマホゲーム  
「白猫プロジェクト」の世界観を体験できる  
「星たぬきカフェ」を期間限定で開設。  
【開催期間】 9 月 10 日 ~ 10 月 10 日

## 取り組み ③



当初 9 月中の引き渡し予定であった東京支店  
ビルの売却において、期日までの入金を確認  
できないため契約が解除となる。  
引き続き、当該物件は売却予定資産として、  
売却先の選定を進めていく予定。

# 今期の業績見通し



(百万円)

	2016年2月期 通期実績	2017年2月期 業績予想	前年同期比 (%)
売上高	13,823	15,000	108.5
営業利益	72	150	208.1
経常利益	72	120	165.8
当期純利益または 親会社株主に帰属する当期純利益	△232	44	—
配当金	中間 1.5円 期末 1.5円	中間 1.5円 期末 1.5円	

【IRに関するお問い合わせ先】  
株式会社ジェイグループホールディングス  
管理本部 IR担当  
TEL：052-243-0026

当資料は株式会社ジェイグループホールディングスが作成したものであり内容に関する一切の権利は当社に帰属しています。

複写及び無断転載はご遠慮下さい。当資料は当社が現在発行している、また将来発行する株式や  
債券等の保有を推奨することを目的に作成したものではありません。

また、当資料は当社が信頼できると判断した情報を参考に作成していますが当社がその正確性を保証するものではなく、  
事業計画数値に関しても今後変更される可能性があることをご了解下さい。